

## 和本のすすめ

中野三敏著

本の製作過程、あらゆる分野にわたる

一年の計は元旦にありと思  
いながら、まだ新年の計画が  
立っていないという方には、  
ぜひ本書を読んでほしい。そ  
うすれば、今年こそ「くずし  
字」を読めるようになるぞと  
決意なさるはずだ。

博学の著者によって、江戸  
の出版文化や書物に関する情  
報が、多角的に紹介される。  
当時の著作権や原稿料から和

本の種類（この点は同じ著者  
の『和本の海へ』が詳細でお  
勧め）、海外に流出した本の  
こと、などなど。

今も絶大な人気の伊藤若  
冲は、拓版という印刷の技  
法を完璧にこなしした絵師だっ  
た。拓版とは、整版や活字版  
とは違って……と説明しだす  
と切りがない。それは本書で。  
和本についての概説をする

のが著者の意図ではない。江  
戸文化の豊饒さを知るには、  
じかに和本にふれるしかない  
のに、今や「くずし字」が読  
める人は〇・〇〇四パーセン  
ト（著者推定値）に過ぎない  
ということへの警世の書であ  
り、無念さの表明である。

さて、くずし字をすらすら  
読めるようになる秘訣だが、  
それも本書で。実践すれば、  
今年の暮れには柔らかな手ざ  
わりの和本が掌でおどる。

（岩波新書、860円）